

【担当教員名】 渡辺真澄	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

脳性麻痺による障害は運動障害が主体であるが、近年の産科学や新生児医学の進歩により、重複障害が増えてきている。発声発語や摂食嚥下に限らず、知的発達から広くコミュニケーションへの関わりに変化してきた言語聴覚士の取り組みについて学ぶ。さらに演習では、これまで学習した言語発達障害に関する総合演習として、面接、検査、診断、治療の一連の流れを学習する。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

- 脳性麻痺
 - 脳性麻痺の運動特徴について理解する。
 - 脳性麻痺に由来する言語聴覚障害の特徴を把握し、訓練および援助の方法を学ぶ。
 - 言語発達障害の治療・援助に必要な検査・診断技術を習得する。
 - 種々の言語発達障害の特徴と問題点を把握する。
- 言語発達障害のまとめ

回数	授業計画又は学習の主題		SBO	
			番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	脳性麻痺とは	脳性麻痺の障害増		講義（渡辺真）
2	脳性麻痺の運動特徴	正常運動発達と脳性麻痺児の運動特徴		講義（渡辺真）
3.4	脳性麻痺に伴う 言語聴覚障害の特徴	運動障害に由来する言語障害、 関連する障害、重複障害		講義（渡辺真）
5	治療の流れ	言語聴覚障害の訓練		講義（渡辺真）
6.7	脳性麻痺児の臨床	脳性麻痺における拡大・代替コミュニケーション 重複障害の臨床		講義（渡辺真）
8	まとめ	脳性麻痺のまとめ		講義（渡辺真）
9	総合演習	言語発達障害に関する総合演習		演習（渡辺時）
14				

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	脳性麻痺	日本聴能言語士協会講習会実行委員会（編集）	協同医書出版社	2002年	3500円
参考書	リハビリテーション医学講座第11巻 脳性麻痺	五味重春（編著）	医歯薬出版	1990年	4000円
その他の資料					

【評価方法】 平常の学習状況 定期試験	【履修上の留意点】 渡辺真澄、渡辺時生の分担となる予定。
---------------------------	---------------------------------